

花

センターだより

緑

2007・10
2号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

都市の緑としての鎮守の森

兵庫県立大学教授 田原 直樹

失われた自然の記憶

都市の緑と言えば、まず公園が思い浮かびますが、わが国の都市には他の国にはない特徴的な緑があります。社寺の緑、いわゆる鎮守の森です。歴史が古い社寺の場合には、かつてその地域にあった自然の特徴が継承されていることがしばしばあります。その意味では、都市の鎮守の森は、失われた自然の記憶であり、自然からみた地域の個性の象徴であるとも言えるでしょう。

地域コミュニティの象徴

自然的な文脈だけではなく、社会的な文脈においても同様のことが言えます。鎮守の森は、かつてそこにあった旧集落に営まれていた社寺の森であることが多いのです。だから、鎮守の森の周囲には、今でも地縁的な紐帯の強い地域社会が生きていることが少なくありません。あたかも森を囲む共同体が営まれているかのようです。地域コミュニティの象徴としての森、それもまた、鎮守の森の特徴のひとつと言ってよいのではないかと思います。

変貌した鎮守の森

「〇〇原生林」と呼ばれて親しまれている鎮守の森があります。長い時間を生き抜いてきた鎮守の森に、太古の森のイメージを重ねるのは自然な成り行きと言えますが、厳密な意味で原生林と言えるほどのものはめったに存在しないようです。実のところ、鎮守の森は、私たちが思っている以上に大きな変貌を遂げているのです。

鎮守の森の代表的な樹木と言えば、何を思い浮かべますか。クスノキと答える人が多いのではないでしょ

うか。確かにクスノキには、鎮守の森にふさわしい存在感があります。鬱蒼と生い茂る大きなクスノキを見ていると、数百年前からずっと同じ姿であったことを疑う気にはなりません。しかし、意外なことに、江戸時代に描かれた絵図を見ると、鎮守の森の多くはマツを主体とするものでした。江戸時代の人にとって、鎮守の森とはマツの森だったのです。

今では、こうしたマツの森は見ることができなくなりましたが、いくつかの社寺には当時の面影をしのぶことができるたたずまいが残っています。写真は、そのひとつ、西宮戎神社の境内です。

鎮守の森を世界遺産に

長い歴史をもつ鎮守の森にも衰退の兆しが表れています。社寺への信仰の変化もあって、都市部では樹木がまったくない社寺が増えています。しかしながら、さまざまな特徴をもつ鎮守の森は、世界遺産に値するのではないかと思います。日本が世界に誇る文化的緑として、これからのまちづくりに生かしていきたいものです。



これからの花と緑のまちづくりと園芸の進化 2

技術顧問 藤岡 作太郎

1. 恒久的な市民活用形のホフ（森、中庭）を多くつくる

恒久的で街のシンボルとなる小さな森、ヨーロッパでホフと呼んでいる。中庭ともいうが、まちづくりに関わる市民の活動拠点であり、楽習館、モデルガーデン等も備わっている。有名なのは、スイスのチューリッヒ市リンデン(ボダイジュ)の森、オランダのリッセ市の近くにある著名なチューリップ公園は、キューケンホフと呼ばれている。森づくりにふさわしい樹木として、県北部ではカエデ、シナノキ、カツラ、県中部でもカツラやアカシア‘フリーシア’、カシ、モッコク、モチノキ、ヒイラギ、ナンテン、丹波路にはヒュウガミズキ、ウワミズザクラ、県南ではカツラ、アメリカカワ、ユズリハ、タブノキ、新しいキエダヤナギなど適応できる樹木が多い。

写真1はカナダ・ブッチャートガーデンのホフで、日本でも容易に育つカラーリーフのアカシア‘フリーシア’、ベニバスモモ、アメリカトウヒがみられる。



①ホフはヨーロッパでは市民の活動拠点でシンボル化されている(カナダのブッチャートガーデンのアカシアのホフ)



②セイヨウボダイジュ(ドイツのアウグスブルク植物園や楽習施設を多く備えている)



③ホフの中にはせせらぎも必要で情緒的なガーデン企画が大切(淡路夢舞台にて)

写真2ではドイツのアウグスブルク市内にある公園付きのホフで、日本の造園師が造った庭もあり、暮らしの植物園が完備している。写真3は2000年に淡路花博の出席中最優秀賞をとったせせらぎのある自然の庭であり、これらを見ると、高木はシンボリックな樹木を主役とし、樹陰や市民の実践活動のできるスペースには町づくり、家庭の景観づくりのヒントとなる低灌木、花木、グランドカバー、恒久的な宿根草園を、風格のある演出を行ってまとめあげるのが好ましい。これは高齢者、若者、すべての市民活用型の中庭、小森であり、森林浴、植物より発散するマイナスイオン浴等健康充足という目的をもったものにまとめられる。四季折々に1、2年草をたえず植え替えるシステムでなく、これからは恒久化する植栽を行ってガーデンシティの要とする時代である。

2. 水辺と健康充足のためのマイナスイオン浴をまちづくりに生かす

最近テレビ誌上で国民の健康充足に水及び植物より発散するマイナスイオン効果がクローズアップされている。街に水辺を創造することは、①防災安全に役立つ ②地球温暖化防止と共に水の浄化を推進し、環境浄化を要とする。そのために写真4にみる美しい水生植物を植えることは情操を育むことと植物によって水の浄化に役立たせる。とりわけセキショウ、シュロカヤツリグサ、パピルス等は有効とされている。日本では佐賀、熊本両市は浄化の実用化が進んでいる。海外では、オーストラリア東部が抜きん出て普及している。写真4はニューヨークのセントラルパークの池畔のポンテデリアで、浄化力は少ないものの草姿と夏場に花が長く咲くので、本来アメリカ東部原産であるが、日本にも多く導入されている。街の中に小川、せせらぎのある演出は市民の精神的な落ち着きにも影響するとして、世界ではスイスのルツェルン、ベルン、オーストリアのザルツブルク、ザルツカンマーゲート、ドイツのベルリン等いわゆる水郷と称される都市は極めて情緒が豊かである。

写真5はアメリカ・ボストン市郊外のハーバード大学の入口にある霧吹状のイオン発散の噴水池であり、

これに類似したのはボストン市街の中心部に数多くみられる。ボストン市内では夏場は、幼児がイオンのしぶき浴ができる大規模な噴水があり、自由に噴霧の池の中に入って水浴びする場面を多くみる。オーストラリアの首都キャンベラでは、林の中の散策する通路にそって、日本人の発想で作った林の中のスモーク状のマイナスイオン装置は、数年前に特賞をとったことがある。古くは那智の滝や養老の滝で水を浴びて修業したとされていることは、世界中でマイナスイオン効果が実用化されていることの先駆けである。それにしても諸外国にくらべて、神戸、大阪市のあたりはなぜ噴水が少ないのか、欧米を巡ってその数の少ないことに気付くのである。

写真6は、清流の美しい流れのあるニュージーランドのガーデンシティのクライストチャーチの街の中を縦横に流れているエイボン川である。このような小川、クリークは海外の都市に多くみられるが、クライストチャーチ市の川辺の手入れは見事であり、セイヨウボダイジュ、キエダヤナギ、ベニバスモモ等、本来ニュージーランドに自生しない景観樹木を主体に町づくりに使われている。



④水辺の美化にはポンテデリアが特に有効とされている(アメリカ・ニューヨーク、セントラルパークにて)



⑤水しぶきが霧状に発散させる、マイナスイオン霧水(アメリカ・ハーバード大学入口)



⑥優れたガーデンシティにはほとんど市内に清きせせらぎがある

3. 一般の園芸をたしなむだけでは景観創造の町づくりには結びつかない

町かども家庭の庭も恒久性を考える時代に来ている。なぜならば、1、2年草主体では手間がかかりすぎて持続しない。そこで西洋でも国内でも、門、玄関脇にはシンボルのカエデ(幸福の木)、カツラ(繁栄)、ヤツデ(厄除け)を植え、しかも格調高くする(写真7)。好例として、飛騨高山市の古川町にみるような坪庭は、今後極めて注目され普及するとみられている。水やり、除草等の手間がかからず落ち着きがある。和洋風のいずれも余り大きくならないベニシタンやキャラボクに岩組みと調和させ、底面は白川砂を敷き詰めるのである(写真8)。

この手法は全国の地域風土性もあるので、それぞれ個性を出せばよい。この造園では、手間がかからずまた、子、孫の代まで維持できる写真9は、ニュージーランド・クライストチャーチの町かどの花壇であり、やるからには合理的に枠組みをし、これまた格調の高い演出にする。いずれにしてもガーデンシティの花と緑は、続けて維持管理しやすい恒久的なものとなる必要があるのである。



⑦草花で飾るより、恒久的でシンボル性(カエデ=幸福)のある樹木を要に植えた方が有効



⑧手間のかかる1~2年草より写真のような坪庭が普及する時代になる(高山市古川町)



⑨街の花壇では風格のある花壇デザインに期待(ニュージーランド・クライストチャーチ)

カランコエの花が咲かない

Q 花を沢山つけたカランコエを購入しました。花後に新しい茎葉が出てきましたが、花が咲きません。どうしてでしょうか。

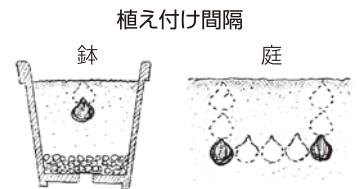
A ①カランコエは短日植物なので、夜も明るいところでは花が咲きません。日の長さが12.5時間以下になると花芽がつきます。花芽をつけるには日長を8～9時間にすると短日処理をします。たとえば、9月上旬から1ヶ月ほどの間、ダンボール箱を夕方5時から朝9時頃までかぶせて夜を長くすると、クリスマスの頃に花が咲きます。②花芽ができる温度は、10～15℃必要です。寒さに強く、冬越しには5℃以上あればよいのですが、花を咲かせるには、10～15℃に保つようにします。③多肉植物なので乾燥に強いのですが、高温の夏に鉢土の水分が多いと、根腐れを起こしやすいです。夏や生育を停止する冬は水やりを控え、1週間か10日に1回程度少量やります。春と秋は鉢土がよく乾いてからやるようにします。



チューリップの植えつけ

Q 春に季節の喜びを感じさせるチューリップを楽しみたいと思います。植え付けの方法と育て方について教えてください。

A ①植え付け時期は秋咲きの草花が終わって気温が低くなる10月下旬から11月に行います。②植え付け間隔と深さは、鉢植えはある程度密に植えたほうが見ごたえがあります。深さは球根半個分から1個分の土をかけます。庭植えは鉢植えより間隔を広くします。球根3個分の間隔をとり、球根2個分の土をかけます。③チューリップは球根の中に花が咲くための十分な養分をもっていますが、よりよく育てるために、植え付けの際に元肥として緩効性化成肥料を施します。新しい球根を育てる場合には芽が伸びてきたときと花後に1回ずつ速効性化成肥料を施します。④水やりは芽がなくても土の中では根が伸びています。土が乾いたら水をやります。



●●● 季節の園芸相談

相談員 福本 誠

踊りハボタンのつくり方

Q ハボタンを寄せ植えや花だんで楽しんだ後、2年目は踊りハボタンをつくってみたいと思います。つくる方法を教えてください。

A 秋に購入するポット苗は緑の葉が多く、できるだけ大株で、根の張りがよく、ぐらついていないものを選びます。春になり花芽が伸び始めると、下葉が枯れてくるので、病気を防ぐため、こまめに取り除きます。株の中心部から花茎が伸び花が少し咲いたら、タネがつかないうちに、わきから出ている花芽もすべて切ります。花茎を切った後の長雨や梅雨時は、切り口が腐りやすいので、雨のかかりにくい軒下や玄関先に置くほうが安心です。花芽をきったあと、新芽が少し大きくなったら、根をほぐしてひとまわり大きな鉢に植え替えます。用土は、市販の草花用培養土や赤玉土と腐葉土の配合土に、緩効性化成肥料を1?当たり2g混ぜておきます。追肥は10月上旬までにします。伸びた新芽はつけ根が弱いので、風や重みでおれたりするので、支柱をたてます。

ユズの実がつかない

Q 家の庭のユズは、植えてから4年ほどたつのに花が咲かず、実もつきません。ユズの実がよくなる方法を教えてください。

A ユズのつぎ木した苗木は、花がつくまでに、庭植えて3、4年かかります。実生苗の場合は、5～7年、もしくは10年くらいかかるものもあります。ユズは、つぎ木苗でもウンシュウミカンなどよりも樹勢が強く、特にチツソの吸収がよいため、枝葉ばかり育ち、花や実がよくつかなくなります。対策として、チツソを控えめにして、リンサンやカリの多い肥料を施すようにします。ユズは、放任しておくと枝が立ち上がり、花が咲きにくくなるので、若木のうちに支柱やひもなどで誘引して枝を横に開いて、開心形になるように仕立てます。以上試して花がつかなかったら、3月ごろ根元から50～60cmくらいの所を掘って、太い根を2～3本切る(断根)のが効果的です。また地面から20～30cmのところの樹皮を幅1cmほどはぎ取る環状剥皮を5月上旬ごろに行うのも効果があります。

花ごよみ

	花名	10月	11月	12月
フラワーセンター	キク	●	●	
	ビオラ		●	●
	球根ベゴニア	●	●	●
	ハボタン			●
	宿根サルビア	●	●	
	コスモス	●	●	
	アメリカフウ(紅葉)	●	●	
西猪名公園	チェリーセージ	●	●	
	コスモス	●	●	
	ノジギク		●	●
	寒菊			●
一庫公園	ドウダンツツジ	●	●	
有馬富士公園	ツワブキ	●	●	
	ナツハゼ(紅葉・実)	●	●	
	ソヨゴ	●	●	
甲山森林公園	リュウノウギク	●	●	
	ヤクシソウ	●	●	
	アキノキリンソウ	●	●	
	ヨシノアザミ	●	●	
	アキノタムラソウ	●	●	
	サワヒヨドリ	●	●	
	キンモクセイ	●	●	
	サザンカ		●	●
	カンツバキ			●
	ノコンギク	●	●	
	ツワブキ		●	●
	イロハモミジ		●	●
	オオモミジ		●	●
	ハゼノキ		●	●
赤穂海浜公園	フヨウ	●	●	
	サザンカ		●	●
	ツワブキ		●	●
	ノジギク		●	●
明石公園	イロハモミジ	●	●	
	サザンカ		●	●
	ハゼノキ		●	●
	カンツバキ		●	●



花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、10月～12月にかけて、次の催しを計画しています。

10月		
フラワーセンター	第30回兵庫県連合菊花展覧会	10/14～
	第18回兵庫県花き品評会(秋の部)	10/19～
甲山森林公園	ひょうご森の日	10/28
有馬富士公園	秋を感じる山野草の寄せ植え	10/19
	ありまふじフェスティバル'07秋	10/20・21
赤穂海浜公園	秋を感じる山野草の寄せ植え	10/10
播磨中央公園	秋のぼらまつり	10/20
花緑センター	第22回福助菊展	10/31～11/5
11月		
フラワーセンター	オモト展	11/1～4
	寒蘭展	11/22～25
播磨中央公園	秋のぼらまつり	～11/4
有馬富士公園	クリスマスの洋花の寄せ植え	11/16
12月		
フラワーセンター	洋ラン特売会	12/21
	クリスマス音楽会	12/23
有馬富士公園	お正月の玄関を飾る葉牡丹の寄せ植え	12/21

(※日程・内容については変更することがあります。)

花と緑のまちづくりセンター

- 平成19年10月1日(年4回発行)
 - 編集発行 財団法人兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター
- 〒673-0847 明石市明石公園1-27
TEL :078(918)2405
FAX :078(919)5186
Eメール: ifno_midori@hyogopark.com



～編集後記～

いつまでも暑かった今年ですが、ようやく秋の訪れを実感。

明石では今年初めて開催した“2007ひょうごまちなみガーデンショー in 明石”もおかげさまで好評のうちに無事閉幕できましたことお礼方ご報告申し上げます。今後ともご協力ご支援下さいますようお願い申し上げます。

なお、センターだよりでは皆様のご意見・ご感想をお待ちしておりますので、ぜひ左記までご連絡下さい。

平成19年 10～12月 園芸教室のご案内

1講座だけでも受けられます。事前申し込み必要。受講料は1回100円。
 時間：13:30～15:30 日程・申し込み受付開始日は変更になることがあります。

●一般講座

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
27	10/5 金	菊の花後管理 ・菊の花後管理法とその後の管理法、土づくりの説明	福本 誠	9/28
28	10/12 金	冬の鉢花管理 ・鉢花の冬越し法について説明ハンギングバスケットの楽しみ方	南波 英夫	10/5
29	10/19 金	先人に学ぶ(1) ・南方熊楠の業績、人物像について学ぶ	吉川 壽洋	10/12
30	10/28 日	森で遊ぼう!秋 ・テーマは樹木	西森由美子	10/21
31	11/2 金	果樹の手入れ(1) ・柑橘・枇杷・ウメ等の植え付け、肥培管理、病虫害防除、剪定法	高仙坊義治	10/26
32	11/30 金	初冬を染める(シルクのショール) ※材料費1,800円必要 ・サザンカの花びらを使って火を使わずに美しく染める	前田 初代	11/16
33	12/7 金	果樹の手入れ(2) ・ブドウ・カキ等の植え付け、肥培管理、病虫害防除、剪定法	高仙坊義治	11/30
34	12/15 土	恒久的な人気植物の寄せ植え ※材料費2,900円必要 ・長く楽しめる人気植物の寄せ植えを作る	藤岡作太郎	12/1
35	12/22 土	松竹梅寄せ植え実習 ※材料費3,900円必要 ・お正月に向けて松竹梅の寄せ植えを作る	村山 清	12/8

●参加型講座

※事前申し込みが必要。参加は無料です。材料は相談所で用意。時間：13:30～15:30

日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
10/7 日	どんぐりを描こう!展 ・どんぐりを写生することで、樹木の生態や環境を学ぶ。	松井 安由	9/30
10/21 日	樹木を観察しよう!展(秋) ・紅葉の葉を写実することで、季節に伴う樹木の姿を学ぶ。	福本 誠	10/14
12/2 日	樹木を写そう(秋) ・明石公園内で秋の樹木を撮影しましょう。	梅木伸一郎	11/25

●専門講座(全3回)

※全回受講で受付します。受講料は一括600円。時間：13:30～15:30

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	11/10 土	I 日本の森と庭園 ・庭に見る日本人の意識と森との係わりについて	村田 光平	11/3
2	12/1 土	II 森と都市と文明 ・森と都市とその文明との深い紐帯について		
3	3/1 土	III 森林の生態 ・人類の生存基盤たる森林とその生態について		

●お申し込み先:

花と緑のまちづくりセンター (9:00～17:00)
 TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186
 Eメール: info_midori@hyogopark.com